

# 自治体 D X 外部人材スキル標準について

令和 4 年 6 月 3 日



総務省

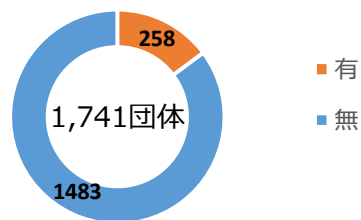
情報流通行政局 地域通信振興課  
地域力創造グループ 地域情報化企画室

# 自治体DX外部人材スキル標準について

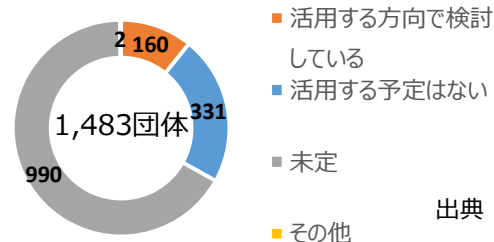
## 現状と課題

- 外部デジタル人材を活用していない1,483団体の内、今後の活用の意向について、160団体が「活用する方向で検討」、331団体が「活用する予定はない」、990団体が「未定」と回答している。

<デジタル人材活用有無>



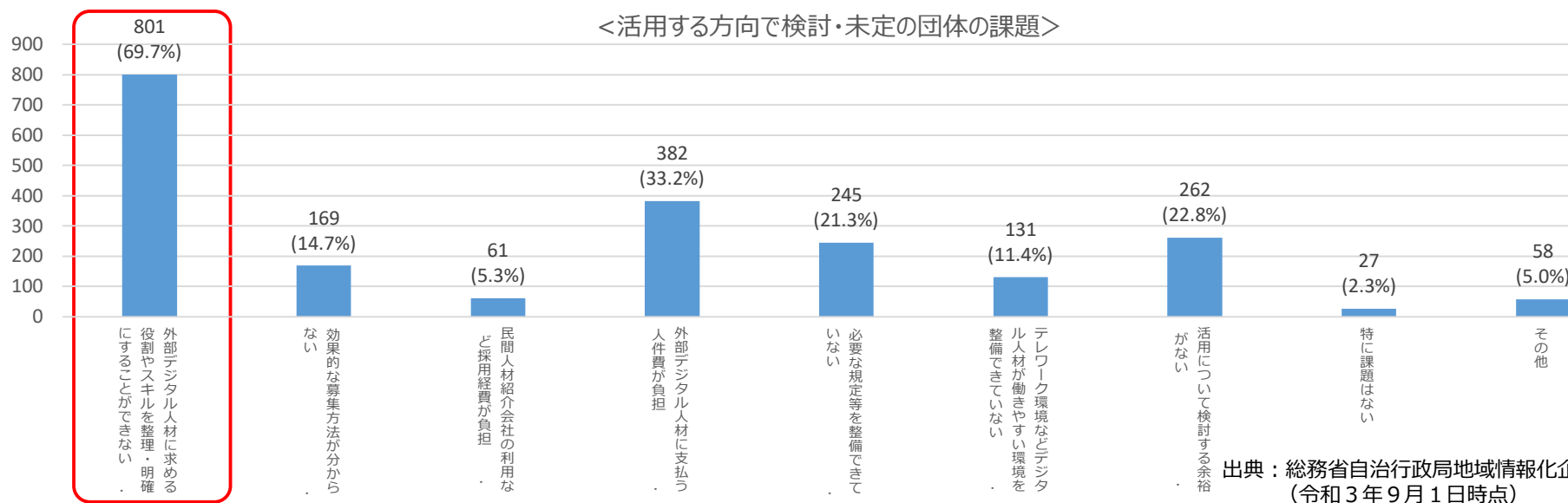
<活用無団体の活用意向>



出典：総務省自治行政局地域情報化企画室調査  
(令和3年9月1日時点)

- 「活用する方向で検討中」又は「未定」と回答した1,150団体における活用に当たっての課題は次のとおり。(最大2つまで選択可)

<活用する方向で検討・未定の団体の課題>



出典：総務省自治行政局地域情報化企画室調査  
(令和3年9月1日時点)

外部デジタル人材を自団体に活用することのイメージを持ってもらうなど、募集の前段階におけるきめ細かな支援が必要。

# 自治体DX外部人材スキル標準について

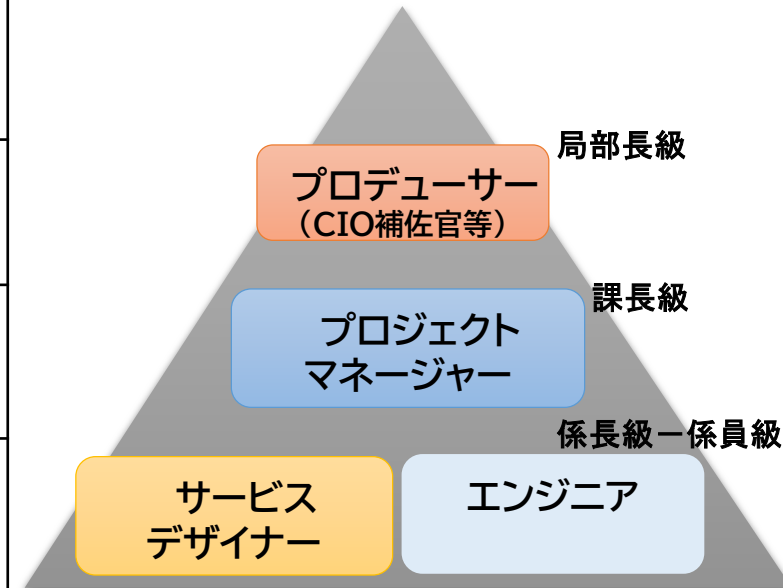
## 自治体による外部人材の確保支援のための取組案①

自治体DXに携わる外部人材が備えておくことが望ましいスキルや経験を類型化した「**スキル標準**」を策定・周知し、自治体による外部デジタル人材の確保を支援する。

### 【自治体DX外部人材スキル標準について】

- 自治体DX推進に必要とされる人材像を**4つに分類**し、それぞれが備えることが望ましいスキル等を記載。
- 各自治体が、4つの人材像全てについて外部人材を任用することを想定しておらず、各自治体が、**必要な部分をニーズに応じて選択**することを想定。

人材像	役割	備えることが望ましい 主なスキル等
(1) プロデューサー (CIO補佐官等)	・全庁的なデジタル 変革を主導する。	・国の政策動向に関する 知見、全体方針立案
(2) プロジェクト マネージャー	・各プロジェクトの 企画・推進を行う。	・企画構想、スケジュール 管理、コスト管理
(3) サービスデザイナー	・各プロジェクトに おけるサービス・ 業務の設計を行う。	・業務改革、サービス設計、 UI・UX
(4) エンジニア	・各プロジェクトに おけるテクノロジー の実装を担う。	・RPA、ローコード等に関 する知見



# (参考) スキル標準の策定に際していただいたご意見

## 有識者からの主な意見(スキル標準について)

- 今回の取組に賛同。人材像を4つのカテゴリーに分け、職位に当てたことは自治体職員にも分かりやすい。
- サービスデザインに関するスキルが必要。
- テクニカルスキルだけでなく、多様な人材とつながるなどのヒューマンスキルも必要。
- 現在行動に出られていない自治体は、自治体DXのための組織や重点項目以前に「何のために行うのか」「何の効果があるのか」といった段階の職員がほとんどである。自治体DXに取り組む前に、取組の気運を醸成する段階が必要。

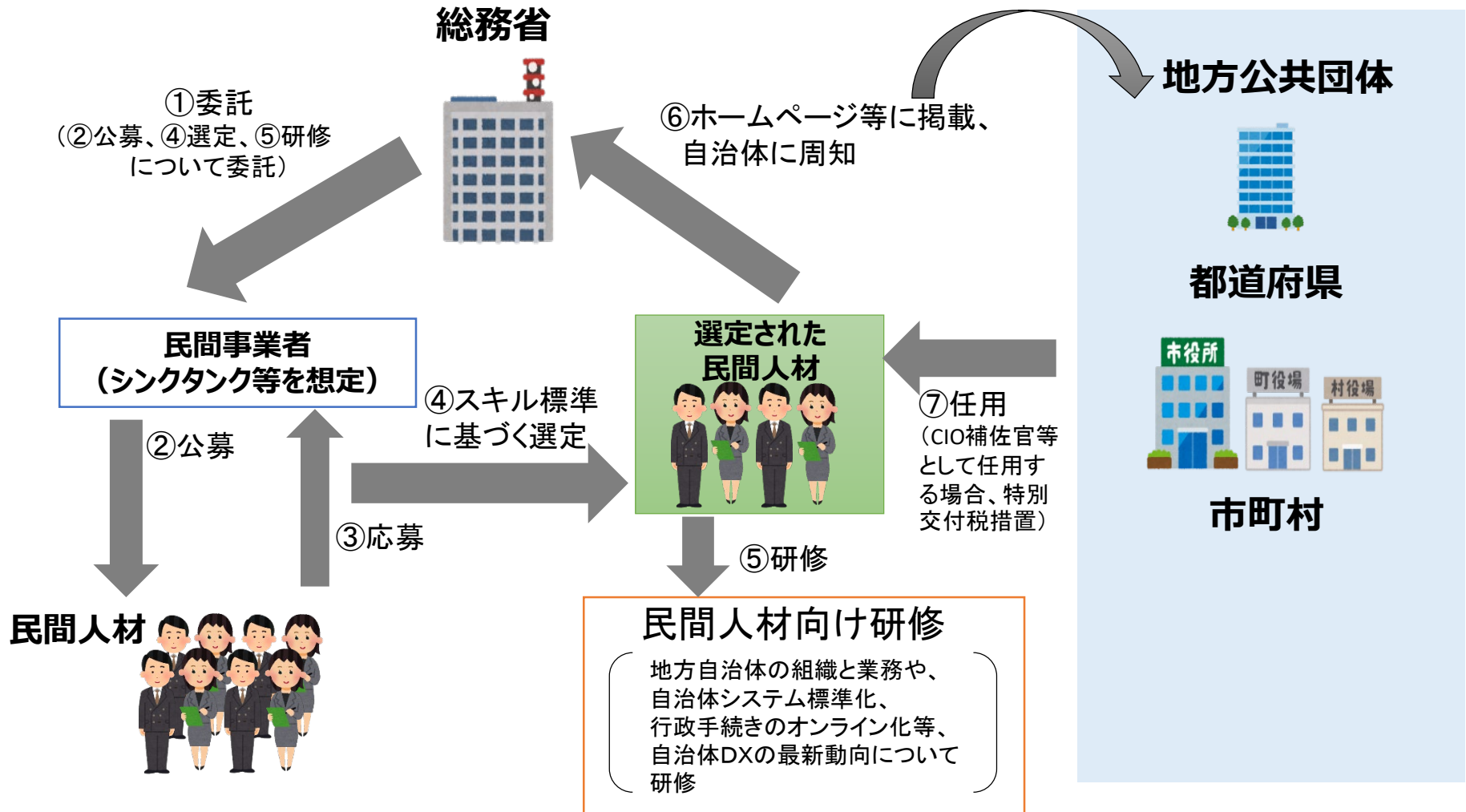
## 自治体からの主な意見(外部人材の果たす役割について)

- 外部人材は、自治体DX推進にあたって、職員の意識を変えるきっかけを作ることができる。
- 外部人材の採用によって、サービスデザイン思考を含め、業務改革(BPR)への意識が広がる契機になった。BPRには、行政にはない外部からの視点が必要。
- 外部人材の声がきっかけになり、ローコード開発ツールを導入することができた。
- 規模の小さい自治体は、人手不足がDX推進の課題ではないか。庁内ネットワーク、庁内システム、情報セキュリティ、調達業務を1人で実施する自治体もある。
- 外部人材も自治体業務の知識がなければ所管課と話が通じないので必要。細かな知識ではなく、制度の仕組みや他部署との連携がわかっているとよい。
- 外部人材は「なんでこれができないのか」と専門的な見地で突っ込んでくるが自治体側からすればできない理由もやはりある。地方公共団体に関する知識は必須である。地方公共団体に関する知識がなしで入ってきたときには調整に時間がかかることは間違いない。知らない現場との軋轢が出てくる。
- アイデアが頓珍漢で職員を混乱させることがないように、外部人材も地方公共団体に関する知識は必要。

# 自治体DX外部人材スキル標準について

## 自治体による外部人材の確保支援のための取組案②

- スキル標準に基づき、CIO補佐官等の外部人材について、一定のスキルや経験を有する民間人材を公募し、選定。
- 選定された民間人材に対して、自治体の業務や情報システム等について研修を実施。
- 選定された民間人材を自治体が任用。



# 外部人材向け研修のイメージ

## 目的

これまで自治体に勤務したことがなく、自治体での任用を希望する外部人材が、自治体の組織・業務・システムや自治体DXの国の動向等に関する基礎的な知識を習得すること。

## 対象

自治体DX人材スキル標準に基づき選定した人材を想定

## 実施形態

主催：総務省（民間事業者に委託）※APPLICとも連携

実施形態：オンライン配信（Teamsを想定）

回数：5回～6回（1回あたり60分を予定）

費用：無料

備考：修了後に「修了証」を交付

### （１）自治体の組織と業務（1コマ）

- ・地方自治制度（国と地方の役割分担、都道府県と市町村の役割分担、自治事務と法定受託事務 等）
- ・自治体の組織（首長部局とそれ以外（教育委員会、選挙管理委員会など）、議会）
- ・自治体の業務（総務、企画、財政、住民生活、保健福祉、環境、商工、農水、土木・建設、教育、その他（上下水道、交通等））

### （２）自治体システムとセキュリティ（1コマ）

- ・基幹業務系システム（住民記録、税・・・）と情報系システム
- ・3層の対策（情報セキュリティ強化の観点から、マイナンバー利用事務系、LGWAN接続系、インターネット接続系の3つを分離）
- ・情報セキュリティポリシーの策定

### （３）マイナンバー制度と個人情報保護（1コマ）

- ・マイナンバー制度（マイナンバーとマイナンバーカード、マイナンバーによる行政事務効率化、情報の分散管理の仕組み、マイナンバーカードの利活用）
- ・個人情報保護（これまで個別の個人情報保護条例で対応（いわゆる2000個問題）、令和3年改正個人情報保護法の施行により解消予定）

### （４）自治体DX（2コマ～3コマ）

- ・総論（国の取組みの紹介、自治体DXの課題、自治体DXと企業DXとの違い、外部人材に期待されること）
- ・各論（システムの標準化・共通化、マイナンバーカードの普及促進、行政手続のオンライン化、AI・RPA の利用推進、テレワークの推進、セキュリティ対策の徹底、地域社会のデジタル化など、事例紹介含む）

## カリキュラム

# (参考)自治体DXに係る外部人材スキル標準のイメージ①

カテゴリー	自治体DX推進に必要なとされる人材像(役割)	備えておくことが望ましいスキル要件			望ましいスキルレベル・資格	望ましい経験
		分類	名称	内容		
1	<p style="text-align: center;">(全庁的な自治体DXの企画・推進)</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">プロデューサー</p> <p>○自治体DXの推進に向け、組織全体の機運醸成、職員の意識改革を図る。</p> <p>○全体方針(DX推進のビジョン・工程表)を立案する。</p> <p>○全庁的なDX推進体制を構築する。</p> <p>○他自治体や民間企業等との連携の枠組みを構築する。</p> <p>○情報セキュリティポリシーを見直す。</p>	テクニカルスキル	全体方針立案	ガバメントクラウド、マイナポータル等、国の自治体DXに関する政策の動向を把握するとともに、相互に関連するDXの取組みを総合的かつ効果的に実施し、全庁的にDXを強力に推進していくための全体方針を立案。(必要に応じ個別の取組に関する計画を策定)	<p>以下のいずれかのスキルレベル又は資格を有していることが望ましい。</p> <p>【スキルレベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ITスキル標準(IPA)のコンサルタント、又はITアーキテクトの分野におけるレベル4相当以上の実務能力。</li> <li>又は</li> <li>情報システムユーザスキル標準(IPA)のビジネスストラテジスト、ISストラテジスト、ISアーキテクトのいずれかの分野におけるレベル4相当以上の実務能力。</li> </ul> <p>【資格】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ITストラテジスト (IPA)</li> <li>又は</li> <li>ITアーキテクト (IPA)</li> <li>又は</li> <li>システム監査技術者 (IPA)</li> <li>又は</li> <li>情報処理安全確保支援士 (IPA)</li> </ul>	<p>以下のいずれかの経験を有していることが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル分野における戦略の立案・推進の責任者として、チームのメンバーをリードした経験。</li> <li>民間企業等のデジタル技術を活用する部門もしくは情報システムを所管する部門で5年程度の管理職又は同等の経験。</li> <li>自治体で勤務した経験、又は自治体から受託した業務に従事した経験。</li> </ul>
			サービスデザイン思考	利用者の本質的なニーズに基づき、利用者により「使っていただく」という意識でサービス・業務を見直し。		
			技術・データの活用	自治体DXを進める上で生じた課題の解決に資する、適切なデジタル技術の導入やデータの活用を助言。		
			情報セキュリティ	三層の対策など、自治体の情報セキュリティポリシーに関する国の政策動向や情報セキュリティ技術に関する知識に基づき、自団体の実態に応じて情報セキュリティポリシーを見直し。		
		ヒューマンスキル	リーダーシップ	ビジョンの実現に向け、自らが変革の原動力となり、組織横断的に職員に働きかけ、全庁的に自治体DXの機運を醸成。		
			コミュニケーション	首長やCIOをはじめとした自治体の内部のみならず、民間事業者・大学等の外部の関係者とも密接に意思疎通を行う。		
			コーディネート	連携の枠組みの構築に向け、自らの所属する自治体の職員と他自治体の職員・民間事業者及び大学等の外部の関係者を結びつける。		

# (参考)自治体DXに係る外部人材スキル標準のイメージ②

カテゴリー	自治体DX推進に必要なとされる人材像(役割)		備えておくことが望ましいスキル要件			望ましいスキルレベル・資格	望ましい経験
			分類	名称	内容		
2	(自治体DXを実現するための各プロジェクトマネージャー)	<p>○プロジェクトを企画し、そのスケジュール、コスト、品質等を管理する。</p> <p>○(外部に業務を委託する場合)事業者の選定を行う。</p> <p>○他自治体や民間企業等との連携の枠組みを構築する。</p>	テクニカルスキル	プロジェクト企画	全体方針をもとに、自治体内部や地域の課題、利用者のニーズをくみとり、プロジェクトを企画。	<p>以下のいずれかのスキルレベルもしくは資格を有していることが望ましい。</p> <p>【スキルレベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ITスキル標準(IPA)のプロジェクトマネジメントの分野におけるレベル3~4相当以上の実務能力。</li> <li>又は</li> <li>・情報システムユーザースキル標準(IPA)のプログラムマネージャの分野におけるレベル3~4相当以上の実務能力。</li> </ul> <p>【資格】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトマネージャ(IPA)</li> <li>又は</li> <li>・PMP(Project Management Institute (PMI))</li> </ul>	<p>以下のいずれかの経験を有していることが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル分野におけるプロジェクトの提案、立ち上げ、計画策定、実行、終結といったプロセスにおけるプロジェクトの責任者として、プロジェクトのメンバーをリードした経験。</li> <li>・民間企業等のデジタル技術を活用する部門もしくは情報システムを所管する部門で3年程度の管理職又は同等の経験。</li> <li>・自治体で勤務した経験、もしくは自治体から受託した業務に従事した経験。</li> </ul>
				スケジュール管理	プロジェクトで発生する作業を誰がいつまでに実行するかなどを定め、作業の進捗を管理。		
				コスト管理	プロジェクトに必要なコストを算出し、プロジェクト費用を想定の範囲内に収めるためコスト実績を管理。		
				品質管理	プロジェクトにおける成果物の品質を管理し、成果物を検証。		
			ヒューマンスキル	委託管理	プロジェクトに必要な作業を外部に委託し、事業者の選定から検収までの工程を管理。		
				リーダーシップ	プロジェクトの達成に向けて、プロジェクトの所属メンバーなどに積極的に働きかけを行う。		
				コミュニケーション	プロジェクトのメンバーのみならず、民間事業者・大学等の外部の関係者とも密接に意思疎通を行う。		
			コーディネート	連携の枠組みの構築に向け、プロジェクトメンバーと民間事業者・大学等の外部の関係者を結び付ける。			



# (参考)自治体DXに係る外部人材スキル標準のイメージ③

カテゴリー	自治体DX推進に必要なとされる人材像(役割)		備えておくことが望ましいスキル要件			望ましいスキルレベル・資格	望ましい経験
			分類	名称	内容		
3	<p>(各プロジェクトにおけるサービス・業務の設計)</p> <p>サービスデザイナー</p>	<p>○利用者にとって使いやすい行政サービスを実現する。</p> <p>○業務プロセスの見直し(BPR)を実施・支援する。</p> <p>○業務の効率化、サービスの改善や地域社会のデジタル化のためにデータを活用する。</p>	テクニカルスキル	要求分析	サービスデザイン思考に基づき、サービス利用者(住民・職員)が求めている要望を可視化し、サービスで実現する要件を具体化。	—	<p>以下のいずれかの経験を有していることが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業等において一般消費者向けのデジタルサービスを企画・設計・開発・実装した経験。</li> <li>・自治体で勤務した経験、又は自治体から受託した業務に従事した経験。</li> </ul>
				UI技術	利用者にとって使いやすいサービスを実現するため、ソフトウェアの操作画面など利用者と情報システムとの接点(UI:ユーザーインターフェイス)を設計。		
				UX技術	人間中心設計やデザインリサーチなどの方法論(フィールドワーク、参与観察などの各種定性調査手法)を利用することにより、利用者にとって望ましいサービスの利用体験(UX:ユーザーエクスペリエンス)を設計。		
				業務分析	定量及び定性的データを分析し、自治体の業務内容及びプロセスを可視化することにより、課題を捉える。		
			ヒューマンスキル	データ活用	業務の効率化、行政サービスの改善や地域社会のデジタル化のために、自治体が保有するデータを活用する。		
				リーダーシップ	サービスや業務の見直し・改善のため、所管課の職員などに積極的に働きかけを行う。		
				コミュニケーション	サービスや業務の見直し・改善のため、所管課の職員やサービス利用者と密接に意思疎通する。		

# (参考)自治体DXに係る外部人材スキル標準のイメージ④

カテゴリー	自治体DX推進に必要なとされる人材像(役割)		備えておくことが望ましいスキル要件			望ましいスキルレベル・資格	望ましい経験
			分類	名称	内容		
4	<p>(各プロジェクトにおけるサービス・業務の実装) エンジニア</p> <p>○適切なデジタルツール（RPA・ノーコードツール等）を実装することにより、業務の効率化や住民の利便性向上を実現する。</p>		テクニカルスキル	要求分析	サービス利用者（住民・職員）が求めている要望を可視化し、デジタルツールで実現する要件を具体化。	<p>以下のいずれかのスキルレベルもしくは資格を有していることが望ましい。</p> <p>【スキルレベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ITスキル標準(IPA)のITスペシャリスト、アプリケーションスペシャリスト、ITサービスマネジメント、カスタマーサービスのいずれかの分野におけるレベル3相当以上の実務能力。</li> </ul> <p>又は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報システムユーザースキル標準(IPA)のアプリケーションデザイナー、システムデザイナーのいずれかの分野におけるレベル3相当以上の実務能力。</li> </ul> <p>【資格】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ITサービスマネージャー(IPA)</li> </ul>	<p>以下のいずれかの経験を有していることが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民間企業等においてデジタルツールの実装を行った経験。</li> <li>自治体で勤務した経験、又は自治体から受託した業務に従事した経験。</li> </ul>
				デジタルツール実装	具体化した要件を実現するため、適切なデジタルツール（RPA・ノーコードツール等）を実装。		
			ヒューマンスキル	リーダーシップ	デジタルツールの実装に向けて、所管課の職員などに積極的に働きかけを行う。		
				コミュニケーション	デジタルツールの実装に向けて、所管課の職員やサービス利用者と密接に意思疎通する。		